

第1回寝屋川市放課後子ども総合プラン運営委員会議事録

1 日時 平成29年7月24日(木) 午後2時から午後3時半

2 場所 議会棟4階 第1委員会室

3 参加者

出席委員 (11名)

杉本委員長・辻本(通)副委員長・坂本委員・辻本委員・屋敷委員・川北委員・青木委員・赤堀委員・川口委員・葛城委員・吉岡委員・北西委員

欠席委員 (3名)

福田委員・澤井委員

事務局 (5名)

川原課長・向井係長・森本係長・大久保・高岡支援員

4 次第

○委嘱状及び任命状の交付式

- ・委嘱状及び任命状の交付
- ・教育委員会挨拶
- ・各委員自己紹介
- ・事務局の紹介

1 委員長の選出 委員長 (杉本 厚夫)

2 副委員長の選出 副委員長 (辻本 通)

3 平成27・28年度運営委員会での検討概要

4 今後の予定について(平成29・30年度)

5 その他

6 会議内容

委員：木田小は校庭開放で16時まで遊んでいる。昨年は留守家庭児童会に帰ってくる前に子供教室へ参加する児童がいたので声かけ等で一旦出欠確認を含め帰ってくる流れを徹底している。以前、子供教室中に蜂にさされた児童がいて学校より保険はどうなっているのか等困惑があった。留守

家庭児童会児童ではなかったが、病院へ付き添う方が必要なので大人の人数や調節など大変と感じた。

委員：1年間放課後子ども総合プランに関わってみて、感じた事がある。PTA活動と子供教室で活動内容は似通っている部分があるが子供教室では報償費が発生する事でお金を貰えない方が不満を感じる事があるのでは。池田小学校では寝屋川市から委託された事業をしている「PTA活動」とは違うと説明を周知している。特に学校関係の事は周知していかないと保護者間の混乱を招く。2つ目は留守家庭児童会の関わりについて。実行委員会への説明では留守家庭児童会は子供教室にしっかりサポーターとして協力的に入ると伺っていた。しかし、事業を開始して話し合いの場を持つと「留守家庭児童会では法律等々で定められており居場所の確保が前提である」と指導員から話が挙がった。指導員も混乱が生じている為、上からの説明や指示がしっかり届いていないのでは。留守家庭児童会の子どもが参加する事に対して実行委員会はなにも問題はない。最後に、校庭開放サポーターと安全管理員についてである。校庭開放サポーターは実行委員会の方針に従って運営していただき謝金を支払うと伺っていたが、寝屋川市からの委託事業であった過去のままサポーターの認識が変わっていないようである。寝屋川市から方向性について説明はなかったと伺っている。今後、説明していただければと思う。

事務局：実行委員会との情報交換の場として交流会を8月23日に予定している。PTA活動と子供教室の違い等の説明は寝屋川市から周知をしていかなければならないと感じている。留守家庭児童会に関しては双方の解釈が違う。我々も感じてきた事である。また、Q&Aが定められており、どのような関わりが必要であるかというのは安全な居場所を確保できたうえで余裕があれば参加できる旨表記されている。安全管理員と校庭開放サポーターの件についても課題は頂戴している。やはりモデル校を始める際に実行委員会・学校・児童・留守家庭児童会・地域など、調整をしていく。放課後支援員2名も配置している中で実行委員会に向かわせていただき極め細やかな説明を行う。

委員：子どもは留守家庭児童会には入っていない為、公園などでボールもつけない環境で遊ぶ場所がない。校庭開放で16時30分まで遊べるようである

が、子どもからは物足りない時間である。しかし、前向きに課題を提供し改善に向かって行っている中で絶対下校を伸ばしてくださいとは軽々しく言えない。

委員長：学校のカリキュラム内・授業以外での子どもの生きる力をつける事が子供教室の願いである。学校ではできないもう少し関わりたいという子どもの意見を伸ばしたい。また地域の方にも見守っていただきたい。

委員：実行委員会を開催している学校は上手く軌道に乗っている。留守家庭児童会の指導員は情報交換も出来ていると感じる。今後、モデル校を設置すると思うが、大人への周知の理解度はすすんでいるか。PTAは役員のみ周知されていると感じる。また、地域の夕方の時間を許す方で講師として生かせる方を探し当てる為に自治会等で広報活動を進めていかなければならない。寝屋川の現状では技術者が民生委員や地域協働協議会等で兼務して子供教室に関われない方もいる。

事務局：青少年指導員 10 名・スポーツ推進員 34 名の代表者がいる。外部講師をどなたに頼めばよいかわからないという意見もあるので地域人材を募集・提示を考慮していく。

委員：実行委員を含め、地域人材を育てていく事を考慮しないといけない。現在は寝屋川市教育委員会が力を入れて推進しているが、地域が将来を考えて地域で人材を育成・確保を進めていく流れを今後考えていければと思う。

委員：留守家庭児童会は優先順位もあるであろうし、モデル校の実績を基に放課後子ども総合プランの関係図もまた、地域の方の意見が挙げられた為、混乱が生じないように見直し整理が必要である。